

令和4年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(瑞穂野地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

<p>令和4年度 第9回 まちづくり懇談会《瑞穂野地区》実施結果報告書</p>

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《瑞穂野地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 令和4年12月26日（月）午後6時30分～午後8時00分
- 2 開催場所 瑞穂野地区市民センター
- 3 参加者数 41人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当副参事，瑞穂野地区市民センター所長，道路建設課長，広報広聴課長
- 5 懇談内容
 - (1) 地域代表あいさつ 瑞穂野地区まちづくり協議会 会長
 - (2) 市長あいさつ
 - (3) 地域代表意見

No.	テ ー マ	所管課
1	瑞穂野地区における公共交通の多様化について	交通政策課
2	災害時の対応について	学校管理課 危機管理課

(4) 自由討議

No.	要 望	所管課
1	みずほの自然の森公園への退避所設置要望について	公園管理課
2	市有施設のトイレの洋式化について	瑞穂野地区市民センター
3	「包括的性教育」の進め方について	学校健康課 子ども家庭課
4	公園の遊具等について	公園管理課
5	子どもの習い事の送迎について	交通政策課 子ども未来課
6	刑部街道の歩道整備について	道路建設課

7	瑞穂野地区市民センター駐車場の駐車区画の拡大について	瑞穂野地区市民センター 建築課
---	----------------------------	--------------------

(5) 市長謝辞

■地域代表意見 1 (要旨)

テーマ	瑞穂野地区における公共交通の多様化について
-----	-----------------------

私の方からは瑞穂野地区における公共交通の多様化について、意見を述べさせていただきます。

瑞穂野地区内の人の移動につきましては、地域内交通「みずほの愛のり号」の運行により、高齢者等の移動手段として利便性は十分に図られていると考えている。

また、瑞穂野地区から市中心部への移動については、平成31年に策定された宇都宮市の第2次都市交通戦略によると、「10年後の都市交通の姿」として幹線バス路線の運行サービスの充実を図ることが示されている。

その一方で、LRTについては、利用対象者を停留場まで徒歩、あるいは自転車で10分程度の範囲内で到着できるLRT沿線(背骨部分)、それから近隣地区(小骨部分)の住民の方々が利用出来るという想定をしているのではないかと考えている。当然、瑞穂野地区については、少し距離があるため、近隣地区とは言えないと考えているが、私が実験的に車で宮環(新4号)を利用し、平石の停留場まで車を走らせてみた。すると、7分位で到着する事ができた。

市の都市交通戦略では「交通手段と交通手段を「つなぐ」これが基本方針として掲げられているが、新たな交通手段であるLRTと地域内交通を「つなぐ」ことで、多様な交通手段が確保され、瑞穂野地区の住民が市東部地域のベルモールあるいは清原球場にも公共交通機関で行く事が可能となるなど、瑞穂野地区住民の利便性が更に向上すると思う。

については、現在の瑞穂野地区地域内交通(デマンド方式)を平石停留場まで繋げる事が出来ないか、検討を要望するものである。よろしく願います。

回答	所管課：交通政策課
----	-----------

【市長】

瑞穂野地区の地域内交通は、早く導入をして頂いた。自分たちの交通をつくり、守り育てるという理念を掲げて頂き、既に10年以上にわたって「みずほの愛のり号」を運行して頂いている。

また、運行に当たっては、運賃収入や地域支援金などを活用しながら、安定的な収入の確保に併せ、回数券補助など他の導入地域の模範となる地域独自の利用促進サービスにも、積極的に取り組んでいき、今までに延べ8万人の方が利用されている。

宇都宮市では、鉄道やLRTを基軸として、都市拠点となる中心市街地と地域拠点を結ぶ幹線道路や幹線バス路線、地域を全面的にカバーする地域内交通

などが連携した、誰もが利用しやすい公共交通ネットワークの構築に向け、来年8月にLRTが開通するが、その開業と併せて市東側において、バス路線の再編を予定している。

先程、おっしゃっていただいた魚の骨であるが、背骨にJR線・東武線あるいはLRTといった基幹公共交通をしっかりと据えていく。宇都宮は東西にこの軸がなかった。軸があるのは南北のJR線・東武線である。この西側に鉄道やモノレール、地下鉄を考えたが、宇都宮の財政ではとても無理であるため、LRTという宇都宮の財政の中でも、充分に対応出来る基幹公共交通を据える事にした。

これを据えることにより、小骨としてバス路線をどんどん増やすことが出来る。そして、小骨と小骨の隙間を埋めていくのが、この地域内交通という事になる。

地域内交通で全部を賄う、瑞穂野から篠井や豊郷など、どこにでも行けるといふ事になると、バスや鉄道が全部死んでしまい、倒産するという事になるため、役割分担をし、乗り換えさえすれば、宇都宮市内がどこにでも自分の力で行く事が出来る、そういうまちを目指していきたいと考えている。

このような中、市東側への移動は、JR宇都宮駅を経由しなければいけないような状況になっている。

また、地域内交通の運行であるが、先程申し上げた様に、地区内にどんどん行けるようになると、既存の公共交通に影響を及ぼしてしまう。

今回、提案を頂いた「みずほの愛のり号」を平石停留場まで繋げる事についてであるが、宇都宮市の基幹公共交通の一つであるLRTと地域内交通を接続する事により、交通ネットワークの強化につながることから、ネットワーク型コンパクトシティの実現にも当然資する提案であると思っている。

今回の提案を何とか進めていきたいと考えているので、まずは既存の公共交通事業者と十分協議させて頂きながら調整を行っていく。

そして何より、利用される皆様方、瑞穂野地区の方々のご意見を頂きながら、進めていきたいと考えているので、よろしく願いしたい。

■地域代表意見 2（要旨）

テーマ	災害時の対応について
-----	------------

災害時の対応について、瑞穂野地区は鬼怒川に隣接し、地区の東側半分は浸水想定区域になっている。もともと防災意識の高い地区であるが、令和元年の台風19号により防災意識が更に高まり、栃木県から地区防災計画策定モデル地区の指定を受け、令和3年4月には、地区防災計画を策定した。

この功績が認められ、令和4年3月に、「栃木県防災・安全功労者に対する知事表彰」を受賞した。策定時の御指導など、様々な御支援を頂き、感謝申し上げます。

また、宇都宮市でも「風水害時に優先的に開設する避難所」や「車両退避場所」を指定するなど、地域住民の生命や財産を守る、様々な取り組みを進めてもらっている。

災害の際には、地域としても避難所運営を、車両退避場所が開設の場合には「NPOみずほの」が協力していく。

地域で風水害の危険が迫った場合には、2階への垂直避難も避難方法の一つではあるが、鬼怒川に近い所の住人はやはり避難所等への避難が良いと考えている。地区内の風水害時に優先して開設される避難所は、瑞穂野中学校と瑞穂台小学校の2校となっており、特に瑞穂野中学校には、体育館だけでなく、武道場・金工室等も避難所として開放してもらえることになっている。

避難者が浸水想定区域から避難所に行くには、地区の特性として自動車でないといけない状況にある。自動車は校庭に駐車する事となっているが、より多くの住民が避難するためには駐車スペースの確保も重要になってくる。地区市民センターは浸水想定区域にあるため駐車場が使えない。また「車両退避場所」に車両を置いた後は、「避難所」や安全な場所に自動車移動する事になる。さらには、令和元年台風19号の際のように、横川地区から避難してくる人も想定されており、実際に避難された方も来た。

そこで中学校の西側に、現在、使用されていない学校農園の跡地があるが、長期間使われていない様子であるため、更地にして頂いて、緊急時には駐車スペースとして活用できるよう要望したい。

回答	所管課：学校管理課，危機管理課
----	-----------------

【市長】

本市では、車の退避場所について、今、連携協定等で一般の企業、特に大きな駐車場を所有している企業と協定を結んで、災害時に無料で置かせて頂くという協定をどんどん結んで、広がっているところである。

瑞穂野地区は、ハザードエリアが大変広いという事もあり、特に高齢者の方などは車での移動を想定されていると思う。道路等が冠水する前に、そういう時には早めに避難をして頂きたいと思う。

ご指摘のあった瑞穂野中学校西側の学校農園跡地については、かつて体験的な教育活動の場として活用されていたが、現在は、使われていない。このため、まずは樹木の伐採をし、適正な管理が出来る状態にしていきたいと思っている。その後、ご提案の緊急時における駐車場の利用など、利用のアイデアが出てくると思うので、是非地域の皆さんと協議をさせて頂きながら、決めていければと思うので、その時は立ち合いも含めて、よろしく願います。

■自由討議（要旨）

発言 1 みずほの自然の森公園への退避所設置要望について

みずほの自然の森公園の要望事項について、申し上げさせて顶きたい。

まず、みずほの自然の森公園であるが、平成19年に瑞穂野地区まちづくり協議会により『NPOみずほの』が設立され、宇都宮市から管理業務委託を受託し、運営している。『NPOみずほの』の会員の皆様方については、公園内の草刈りや花壇の整備などを実施して頂き、公園を訪れる皆さんが安全で気持ちよく、散歩や運動が出来るように管理してきた。

また、年に4回『NPOみずほの』の自主事業として各事業を開催しており、特に、その中の「夏祭り」の花火は、宇都宮市民のみならず市外からも見物に来るなど、多くの皆さんに喜ばれている。

そのような自然豊かな公園ではあるが、利用者の皆さんが懸念されていることが一つある。

近年のゲリラ豪雨に対して、突然雷が鳴り出した時に、屋外にいる自分達の身を守るための施設が公園の中にはない。夏の時期は、管理が行き届いた芝生で、噴水の中やせせらぎ水路で多くの子供たちが遊んでおりが、突然雷が鳴り出した時は、管理棟に休憩所はあるが、公園利用者の方々が全員避難する事ができない。

公園利用者の皆さんの声として、雷が鳴った時などに、公園利用者が避難できる「退避所」を設置してほしいという要望がある。

また、『NPOみずほの』としても、先程申し上げたように、自主事業を開催しており、様々なイベント開催時においても、100人程度収容できる『退避所』があると、安心してNPOの自主事業を開催できる。

公園を利用する市民の皆さんが、より安心して公園で過ごして頂けるよう、NPOとして『退避所』の設置を要望する。

回答 所管課：公園管理課

【市長】

皆様には、事あるごとにNPOとして管理をして頂き、立派に維持して頂いていることに、本当に心から感謝を申し上げます。宇都宮の中で大規模で、あれだけの自然豊かな公園というのは限られているため、市民の皆さんはもとより、市外の方々もたくさん利用されている。そのような方にとって必要不可欠な、「トカイナカ」宇都宮の大切な宝になっているので、これからも管理をよろしくお願いしたい。

まず、雷であるが、事業を開催するに当たっては、しっかり天気予報等を把握して頂いて、雷の接近や豪雨、台風などを見極めながら、開催をして頂きたいと思う。

そして開催に当たっては、その日の天候をしっかりと把握をして頂くと共に、避難経路なども関係者の方々と十分に協議をして頂いて、素早く安全に避難が出来る体制を構築しながらイベントを開催して頂きたいと思う。

このような中、安全な管理棟への誘導についてであるが、ご指摘の通り、管理棟の休憩所は限られているので、まずは管理棟の中に多くの方が避難できるよう、別の場所に倉庫を作り、管理棟の中の備品などをその倉庫に収納し、管理棟には避難をされる方が充分入れるようなスペース確保することを行ってみたいかどうかと思っている。

その上で、また、皆さんと協議をさせて頂き、必要があれば新たな対策も立てていくことが良いのではないかと思うので、是非考えて頂ければと思う。

発言 2 市有施設のトイレの洋式化について

私、普段からちょっと不思議だと思っていることがあるが、市の設備の中で、瑞穂野地区市民センターのトイレもそうだが、和式である。日本のトイレの普及率はもう洋式が100%近いというのに、なぜ市の施設のトイレは、全部和式なのか。

是非、洋式にしてもらいたいと思う。今、岸田さんも言っているように、多くの外国人が、日本に来ている。栃木県には、特に日光など有名な観光地があるため、そういう外国人が、宇都宮の瑞穂野地区市民センターに寄るかもしれない。そのような時に、彼らが洋式じゃなくて和式のトイレを利用することは非常に困難な事だと思う。

是非とも、改築してもらいたいと思うが、いかがか。

回答 所管課：瑞穂野地区市民センター

【市長】

私が就任してから、宇都宮市から和式のトイレをなくそうという事で、徐々に公共施設、特に利用者が多い小学校・中学校、そして避難場所、そのような所から、和式トイレを順次、洋式に変更している。

施設数が多いため、時間が掛かっており、瑞穂野地区市民センターのトイレは残っているが、瑞穂野地区市民センターのトイレも必ず、洋式に変えていきたいと思っている。

ご指摘があったように、外国人の方が使いづらい、または使えないのではないかとと思うが、その他、今の男の子は立っておしっこする事が出来ない子がたくさんいる。このため、学校のトイレを緊急的にどんどん洋式化にしているが、そういう事を考えながら、かつ、建て替え時期の施設は、優先になるが、建て替え時に和式から洋式に変えるとともに、建て替えが不要な既存施設も、順次、洋式化していく。

発言 3 「包括的性教育」の進め方について

私、来年度から子ども家庭課より性教育，中学生の性教育を担当させて頂くことになった。よろしく願います。

今、「包括的性教育」という事で進めさせて頂いているが，中学生の担当という事で、「歯止め規定」というものがあり，なかなか明るみに話すことが出来ない事がある。

「包括的性教育」を進めていくにあたり，その年齢に合わせた課題と言うか，内容を教育の中で行って良いかをお伺いしたいと思い，質問させて頂いた。

(学校健康課，子ども家庭課)

回答 所管課：学校健康課，子ども家庭課

【市長】

教育委員会の話であり，今すぐお答えはすることは出来ないが，後日，教育委員会からお答えをさせて頂ければと思うので，よろしく願います。

大変，必要な事業であり，これから国として，積極的に展開していかなくてはならない事業であることは明白であるため，大変ご苦勞はあるかと思うが，何かあれば教育委員会にどんどん言って頂いて，是非，展開に支障がないように進めて頂ければ幸いであるので，よろしく願います。

発言 4 公園の遊具等について

瑞穂野地区は、ゲームセンターなどのお店が少ないため、青少年巡回指導委員として、公園を中心に見回りをしている。

昔は、子ども達が遊んでいた時期もあったが、最近ほとんどいない。色々な公園があつてスペースもあり、子ども用の施設、ブランコや滑り台、鉄棒などが設置され、遊ぶようになっているが、ちょっと次元を変えて、年配者や年寄りが遊べる公園として、年寄りが遊べる遊具をちょっと考えてもらいたいと考えている。

みずほの自然の森公園にも時々行き、外回りの2キロ位のコースを散歩するが、座れるベンチや、歩く途中で遊べる遊具を設置してもらえれば、もっと利用価値があがるのではないかと思う。

余談であるが、小山の市民病院の前に広い公園広場があり、その周りには、色々な施設が付いており、歩いて、途中で休むという事が出来る。これはいいなと思った。

みずほの自然の森公園も、是非そのような方向で検討してもらい、地区ごとにある小さな公園についても、地域の年寄りの方が、遊びに行けるような遊具を考えてもらえればと思う。

回答 所管課：公園管理課

【市長】

高齢者の方が利用出来る健康遊具であるが、市としても計画的に健康遊具を各公園に設置している。子どもの遊具も必要であるが、高齢者の方々に歩いて健康寿命を延ばす、健康遊具で健康寿命を延ばして頂く、という取組を始めている中で健康遊具の設置を行っている。健康遊具の設置要望がある公園には、積極的に設置していきたいと思う。

発言 5 子ども習い事の送迎について

私は、栃木県の支援事業プログラムの「ウィルコネクティビティ」（栃木県新事業創造プログラム：創業希望者の事業創造を伴走支援）に参加させて頂いているが、子育てについて、習い事の送迎が負担になっており、地域バス（地域内交通）のようなものが、習い事でも使えないか、という意見を聞く。また、横浜市のアクティブ・ラーニングセンターでは、子どもの習い事を一元化するほか、保護者がそこで学べるような施設があったりする。子どもの習い事と保護者が子育てした後に、働きやすい環境作りみたいなものがあると良いと思っており、その活動が何か出来ないか、進めている。今日は、それに関する資料持ってきたので、後でお渡しできればと思い、参加させて頂いた。

このような送迎が習い事の方でも出来たらいいなと思い、良ければご検討頂きたい。

回答 所管課：交通政策課，子ども未来課

【市長】

幅広い方に地域内交通は利用して頂きたいと思っている。

地域内交通は石井地区も市街地の中で、初めてスタートした。デマンドと定時定路を組み合わせたという事で、これも画期的だと思う。

全地区に言えることであるが、地域内交通の利便性を高めるため、バスあるいは鉄道やLRTも含めて接続していくことが必要である。先程も平石の停留場に接続できるようにという話をさせて頂いたが、来年度から利用時間も、少し伸ばす事が出来るようにしていきたいと思っている。

今でも習い事も含め、利用して頂ける事になっているため、是非活用して頂きたいと思う。

また、宇都宮市にはファミリーサポートセンター事業がある。これは、保育園や幼稚園の預かり保育のほかに、サポーターがその日に何時間であれば面倒を見てあげられるよ、といった利用者とのマッチングをするものであり、この事業を活用して、お子さんを預けてお仕事をしたり、あるいは趣味の活動をされたり、という事が出来るようになっているので、是非、活用して頂ければと思う。

発言 6 刑部街道の歩道整備について

道路についてであるが、刑部街道のうち、筑波ジャンボに向かう所の十字路から大関橋まで、子どもたちが歩ける歩道を作って頂きたい。大関橋からみずほの自然の森公園に行く交差点であるが、そこから西に行く道路はまだ歩道が出来ていない。

歩道整備の計画はあるのか。

回答 所管課：道路建設課

【会長】

この件については、市には申請してある。これまで3回位、説明会やっており、あとは地権者の同意があれば、市はやりますというところまで来ている。

地域の皆さんが同意していただかなければ、市も動けない状況である。

【道路建設課長】

今、会長から話があったように、道路の拡幅については、地元の方のご協力が必要になる。今お話があった区間については、どうしても土地の所有者の承諾が必要であり、今、それを地元の方のほうで取りまとめて頂いている状況である。

【市長】

恐らく、地権者が一人だけではないと思うが、地権者の方も前向きに考えて頂いていると思うので、是非、皆さんで協力して、環境を良くしていきましょう。

発言 7	瑞穂野地区市民センター駐車場の駐車区画の拡大について
-------------	-----------------------------------

要望は市民センターの駐車場の件である。

瑞穂野地区市民センターの駐車場が非常に狭い。白線の中に、今日、軽トラックで来たが、非常に狭く、ドアを開けると隣の車にぶつかってしまう。

先日、私が車を停めた隣にご婦人が駐車したが、降りる事が出来なかった。「どうしたんですか」と聞いたら、この人は妊婦さんであり、ドアをパッと開ける必要があったがそれが出来ず、私がもう一回車を入れ直して、妊婦さんが降りてから自分の車を駐車し直した、そういう状態である。

出来ればこの駐車場をもう少し広めに作ってもらいたいと思う。

回答	所管課：瑞穂野地区市民センター，建築課
-----------	----------------------------

【市長】

車幅だと思うが、ラインを引き直すなど、様々な対応があると思う。まずは建設部とセンターの職員で現場を拝見させて頂き、対処法をすぐに考えていきたいと思う。

なお、妊婦の方も含めて、おもいやり駐車スペースがあり、瑞穂野地区市民センターに3台もあるので、是非そちらも活用して頂きたいと思う。